

ヨコハマ 3R 夢プラン第 2 期推進計画（平成 26～29 年度）の取り組み状況について

1 平成 28 年度の実績

第 2 期推進計画では、「ごみと資源の総量」を 29 年度までに、21 年度比で▲5%以上削減することを目標としています。

28 年度の「ごみと資源の総量」は、▲4.3%（21 年度比）の削減率となりました。3R 夢プラン策定以降、最も高い削減率となりましたが、第 2 期推進計画の最終目標達成に向けて、なお一層の取組を進めてまいります。

表 1 平成 28 年度の「ごみと資源の総量」（確定値）

	ごみと資源の総量【単位：トン】						
		家庭系			事業系		
			ごみ量	資源化量※ ¹		ごみ量	資源化量※ ²
28 年度	1,220,905	862,301	583,058	279,244	358,604	304,440	54,164
21 年度差	▲ 54,539 (▲4.3%)	▲ 70,532 (▲7.6%)	▲ 28,241 (▲4.6%)	▲ 42,289 (▲13.2%)	15,993 (4.7%)	▲ 13,989 (▲4.4%)	29,981 (124.0%)
27 年度差	▲ 14,298 (▲1.2%)	▲ 15,111 (▲1.7%)	▲ 3,661 (▲0.6%)	▲ 11,449 (▲3.9%)	813 (0.2%)	▲ 1,041 (▲0.3%)	1,854 (3.5%)
21 年度 (基準年度)	1,275,444	932,833	611,299	321,533	342,611	318,429	24,183

※1 家庭系の資源化量は、行政が回収した資源化量と資源集団回収量の合計です。

※2 事業系の資源化量は、学校給食残さの資源化量と事業者が生ごみやせん定枝を資源化した量の合計です。

【家庭系】

- 家庭系の「ごみと資源の総量」は、▲7.6%（21 年度比）削減となっています。
（内訳：ごみ量▲4.6%削減、資源化量▲13.2%削減）
- 市民の皆様の環境意識の高まりの中、分別・リサイクルの定着、ごみや資源の発生抑制（リデュース）の広まり、小売店の店頭回収等、市民・事業者の皆様の様々な取組の成果が表れています。

【事業系】

- 事業系の「ごみと資源の総量」は、4.7%（21 年度比）増加となっています。
（内訳：ごみ量▲4.4%削減、資源化量 124.0%増加）
- 事業系の「ごみと資源の総量」は、事業活動の動向等の影響を受けますが、街路樹などのせん定枝や生ごみの処理方法として、焼却ではなくリサイクルを選択する割合は上昇しており、事業者の皆様の環境への配慮は高まっています。

2 これまでの取組と今後の展開

横浜 G30 プラン以降、市民の皆様へは、説明会やイベントでの啓発、様々な機会をとらえた広報などを通じて、ごみの分別について協力をお願いしてきました。また、自治会町内会や環境事業推進委員の方々の積極的な関わりもあり、市民の皆様のライフスタイルに、分別によるごみ減量の取組が定着しつつあると考えています。

今後とも、着実なごみ減量に向け、市民や事業者の皆様へ広報や情報発信を積極的に行うとともに、食品ロス削減や家庭・地域での生ごみ堆肥化の取組、さらなる分別・リサイクルの取組などを進めていきます。